

奈良県立病院機構看護専門学校

一般入学試験 問題

国語総合

注意事項

- 1 試験監督の指示があるまで問題を開いてはいけません。
- 2 試験問題は、問題1から問題18までです。試験時間は50分です。
- 3 問題冊子、解答用紙には必ず受験番号と氏名を記入し、解答用紙の受験番号欄には正確にマークしてください。
- 4 解答は、①～⑤の選択肢から正解を一つ選び、解答用紙の該当する番号をマークしてください。二つ以上マークした場合には誤りとなります。
- 5 マークは解答用紙の「マークの方法」の「良い例」のように丁寧に塗りつぶしてください。
- 6 試験中に問題の落丁・乱丁に気付いた場合は、手を挙げて試験監督に知らせてください。
- 7 問題冊子と解答用紙は回収します。室外への持ち出しは禁止します。

受験番号		氏名	
------	--	----	--

(問題は次のページから始まる)

第1問 次の各問いに答えよ。

問題1 次の傍線部の漢字の読み方が正しいもの一つずつ選択せよ。

- (1)
- ① 彼の美声に聴衆が喝采(かいさい)した。
 - ② 近親者が亡くなって学に忌引(けび)きの連絡をした。
 - ③ 成績不振で監督が更迭(こうてつ)された。
 - ④ 相手チームを完膚(かんぷ)なきまでやっつける。
 - ⑤ 法の下(した)の平等を実現した。
- (2)
- ① 大統領の辞任で株式相場が乱高下(らんこうか)した。
 - ② 内閣不信任案の提出は時期尚早(じきそうしやう)だ。
 - ③ 貯水池(ちよすいけ)の周囲に柵を設置した。
 - ④ 鍍金(ちようきん)とは金属を型に溶かしこんで器物を造ることだ。
 - ⑤ 富士山から神々(こうこう)しいご来光を拝んだ。

問題2 次の傍線部の漢字が正しいもの一つずつ選択せよ。

- (1)
- ① 彼女の病状は依然として余断(よだん)を許さない状況だ。
 - ② 亀の甲より年の功(こう)というので祖父の話に耳を傾けるべきだ。
 - ③ 薬の投与によって痛みを暖和(ぬわく)する。
 - ④ 彼女の主張に違論(ちやうろん)を唱える者はいなかった。
 - ⑤ 彼の業績は、もつと適切(てきせき)に標備(ひょうび)されるべきだ。
- (2)
- ① 早い段階で部隊を撤収(せつしゆ)させた。
 - ② 悪い情報は既に折り込み済みなので安心して良い。
 - ③ 学生の最大の感心(かんしん)は優良な就職先が見つかるかどうかだ。
 - ④ この研究所では放射能が生体系(せいたいけい)に与える影響を研究している。
 - ⑤ 環境保善(くわんげいほぜん)に力を入れる。

- (3)
- ① 大きな岩が私たちの行く手を阻んだ。
 - ② 職人の熟練した技術に感銘を受ける。
 - ③ 市役所で市民交流会を会催する。
 - ④ 彼は厚顔無知な態度を取って周りを困らせた。
 - ⑤ 食品添加物の検査を行う。

問題3 次の傍線部と同じ漢字を使うものを一つずつ選択せよ。

(1) 動物園のマスコットの愛シヨウを募集する。

- ① 彼は医学博士のシヨウ号を持つ。
- ② 証人をシヨウ喚する。
- ③ ローンをシヨウ還する。
- ④ 車がシヨウ突する。
- ⑤ 彼はシヨウ燥感に駆られた。

(2) 事をオン便に済ませる。

- ① 謝オン会に出席する。
- ② 体力をオン存する。
- ③ 上司のオン頭で乾杯する。
- ④ 彼女はオン念を晴らした。
- ⑤ 平オンな毎日を送っている。

(3) 住宅地を分ジヨウする。

- ① 部屋の空気をジヨウ化する。
- ② やむなくジヨウ歩した。
- ③ 土ジヨウ汚染を調査する。
- ④ お酒をジヨウ造する。
- ⑤ 異国ジヨウ緒あふれる街に来た。

問題4 次の慣用語、四字熟語または故事成語の意味として正しいものを一つずつ選択せよ。

(1) 堰を切る。

- ① 手元にあるお金をすべて使い切ること。
- ② 物事を最初に始めて、他が続くためのきっかけを作ること。
- ③ 抑えられていた行動や物事が、急に激しく起こること。
- ④ 実際は知っているのに、知らないふりをする事。
- ⑤ 相手に対して、ことさらに自分を誇示したような言動を取る事。

(2) 禍福は糾える縄の如し。

- ① 家から一歩外へ出れば、どんな災難や危険が待ちかまえているかわからないから、十分に気をつけよという戒めのこと。
- ② 幸福と不幸とは、巡り巡ってかわるがわるやってくるということ。
- ③ 何もせずにじっとしているより、何でもいからやってみれば、思わぬ幸運にめぐり合うかもしれないということ。
- ④ 災難で難渋しているときに、さらに災難が降りかかること。
- ⑤ 愚かにも自分から進んで危険や災難にかかわり合うこと。

(3) 角を矯めて牛を殺す。

- ① 筋の通らない無理がわが物顔で通用するような世の中では、筋の通った道理は行われなくなる事。
- ② 戦いに勝ったほうが、結局は理屈抜きにすべて正しいことになり、負けた方はすべて悪いことになる事。
- ③ 付随的なことに力を注いで肝心なことをおろそかにすること。
- ④ わずかな欠点を直そうとして、全体をだめにしてしまう事。
- ⑤ 大事なものを救うためには小さなものを犠牲にするのも、場合によってはやむを得ない事。

(4) 群雄割拠

- ① 支配者の圧政に対抗して、人民が武器を取って一斉に立ち上がる事。
- ② 何の規律も秩序もなくただ集まっている集団のこと。
- ③ 集団内で一人が失敗した時に、全員がそれを償う事。
- ④ 劣悪なものが滅び、優良なものが自然に生き残ること。
- ⑤ 同じような実力や勢力を持つ者が、互いに対立して争っている事。

問題5 次の意味に該当する慣用語または四字熟語として正しいものを一つずつ選択せよ。

(1) 他に先立って事を行っていたのに、急に仲間が手を引いたため孤立すること。

① 詰め腹を切らされる。

② とかげの尻尾切り。

③ 梯子はしこを外される。

④ 怒り心頭に発する。

⑤ 飼い犬に手をかまれる。

(2) 自ら定めた決まりで、自分が規制されてしまうこと。

① 悪戦苦闘

② 四角四面

③ 金科玉条

④ 自業自得

⑤ 自縄自縛

(3) できもしないのに大きなことを言うこと。

① 大言壮語

② 大胆不敵

③ 空理空論

④ 笑止千万

⑤ 奇想天外

問題6 「カテゴリー」の意味として正しいものを一つ選択せよ。

- ① 同じ性質のものが属する部類のこと。
- ② 指定された条件を満たす情報を取り出すために行われる処理の要求のこと。
- ③ 動物が捕食・生殖などのため、他の個体や集団の侵入を許さない占有区域のこと。
- ④ 虚構によらず事実の記録に基づく作品のこと。
- ⑤ 前代の人が残した業績のこと。

問題7 「大学・研究所などで、保守的・形式的・権威主義的な学風を固持しようとする立場」を意味する語句として正しいものを一つ選択せよ。

- ① アナーキズム
- ② アルゴリズム
- ③ エキゾチシズム
- ④ アカデミズム
- ⑤ オプチミズム

問題8 「確執」の同意語として最も適当なものを一つ選択せよ。

- ① 強情
- ② 反目
- ③ 嫉妬
- ④ 悪縁
- ⑤ 偏屈

問題9 「遺失」の反意語として最も適当なものを一つ選択せよ。

- ① 收拾
- ② 更生
- ③ 虚無
- ④ 刷新
- ⑤ 拾得

問題10 傍線部の言葉の使い方が正しいものを一つ選択せよ。

- ① 志望校に合格するために寸暇を惜しまず勉強に励む。
- ② 社会の在り方について物議を呼ぶ本が出版された。
- ③ 彼は押しが強いので、彼の誘いを断るのは難しい。
- ④ 以前の彼の発言が、現在の彼自身の足をすくうこととなった。
- ⑤ 彼女の常軌を外れた行動に周りの人はあつげにとられた。

第2問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

翻訳文芸が繁昌はんじやうだそうである。一応は結構なことだ。あの五十年という制限の網の目がだいぶ緩められて、生きのいい魚がこっちの海へも泳いできて、わが文化の食膳しょくぜんにのぼせられる。悪かろうはずはないが、物事には必ず善悪の両面がある。水から揚がるのは、いい魚ばかりとは限らない。お客さんは腹が空すいているから何でも食う。そこで(ア)料理人は転手てんて古舞こまいで、材料の吟味はもとより、ろくろく包丁も研ぐひまがないという景気になる。つまり濫訳の弊が生じるわけだ。もつともこれは、何も翻訳文芸に限った話ではない。需要の盛大が粗製濫造の弊を伴わないで済むのは、よほど文化の根づきの深い国のことだろう。(A)

まあそんな騒ぎの飛ばつちりで、僕にも一つ板前の苦心談をやれという話になったが、実をいうとこれはちよつと困る。苦心談は要するに自慢ばなしだ。お座敷天婦羅てんぷらにしたところで、長い箸でニューツとつまんで出される度に能書(注1)がついたのでは、お座も胃の腑ふも冷めてしまう。いわんや僕なんかの板前においてをやだ。(B)

で問題を少しそらして、一般に翻訳のむずかしさともいったことについて、少しばかり書いてみたい。正直のところ僕は、(イ)翻訳という仕事だんだん辛くなつて来ている。あながちお年のせいでも、目が肥えてきたせいでもあるまいが、とにかく近頃は一行訳すにも、翻訳という仕事の不自然さ不合理さが鼻についてやり切れない。それで、たまに翻訳をやりだしても、一晚徹夜して三枚なんていう酷ひどいことにもなりがちだ。そう凝こつていたのじゃ間職に合うまい、と言いつてくれる友人がある。大そう御苦心で、さぞ名訳が……と迷惑めいわくそうにおだててくれる編集者もある。だがこっちは、別に凝りも苦心もしていないのだから困るのである。徹夜の時間の大半は、今いった不自然感、不合理感との組打ちのうちに、ただ空そらしく流れているだけなのだから。こうなるともう何のことはない、一種の脅迫観念だ。(C)

世間に、横のものを縦に直す、という憎まれ口がある。けだし翻訳という仕事のからくりをずばりと突いた名言である。なるほど翻訳はつまるところ、It is a book を It is a book と書きかえるだけの仕事に過ぎないかも知れない。至極しごくこもつともな話ではあるが、どうやらわれわれは、この名言の適切さにいい気持になった余り、その底にひそんでいる重大な悲劇に気がつかない傾向があるようだ。横のものを縦に直す、ということが、実は、横座標に盛られたある数値を縦座標に盛り直すという飛んでもない奇術であることに、存外気がつかずにいるわけである。(D)

Traduttore, traditore. というイタリアの古い警句があるそうだ。その意味は、翻訳者は裏切り者、ということだ。(ウ)、そう日本語に直したのでは、やはり申し訳のない裏切りの罪を犯すことになる。なぜなら原句は trad を頭韻とし、fore を脚韻とする大そう粋な駄じゃれだからである。まあ一種の語呂合せみたいなものであり、それを一概に「翻訳者は裏切り者」と心得て畏れ謹つつしんだのでは、この名句の発案者の折角の笑いが消し飛んでしまう。含蓄こくごされている洒脱しゃだつ味が失せてしまう。いささか苦しいが、翻訳者は反逆者とも言い換えれば、少しは洒落しゃれのひびきが通じようというものである。ただしそうすると、下の句が耳遠みよとくなって、意味の通りが悪くなる。翻訳という仕事は畢竟ひつじやう(注2)するに、こつちを立てれば向こうが立たぬ(エ)千番せんぱんに一番の兼合いと心得れば、まず間違いはなさそうだ。(E)

チエーホフも同じような毒舌を「手帳」のなかで書いている。それは「ペレヴォツクはポドリヤツクの誤植」というので、こう仮名で書いてみても、頭韻と脚韻の關係ははつきり分かるだろう。意味は「訳者とあるは請負師の誤植」だが、なるほどそれで一応の意味は通じて、肝腎の洒落の方はさつぱりぴんと来ないことになる。これなど極端な例のようだが、この種の困難は単に詩歌の翻訳の場合ばかりでなく、およそ(オ) 翻訳という仕事があり続けるかぎり、ぜひとも背負わなければならぬ不幸な宿命である。

文芸作品は、せんじつめれば人間精神の自由な *свобода* (遊び、つまり躍動) だ。そこで縄跳びの縄の役目をつとめるのが、つまり言葉なのだが、翻訳という仕事にとつて、およそこの言葉という縄をとび越えるほど厄介なことではない。そこでやむを得ず、色んな便法が講じられることになる。その一例が、(カ) 単色版式翻訳という方法だ。

それを一口にいうと、翻訳者は模写だとか原色版だとか何だとかいう身の程知らずな野心を起さずに、写真屋の役割で満足しろということになる。つまり色だの音だのには目をつぶり耳をふさいで、意味だけを忠実に伝えろというわけである。もつとも今日では既にカラー・フィルムも出現しているから話は別だが、そもそも先行条件として、絞りとか照明とかフィルターの選択とか露出の時間とか現像の技術とか、さまざまな人為的操作がいろいろと誰だつて知っている。ただレンズの確かさとかピントの正しさだけを頼みにしていたのでは、報道写真一枚まんぞくに撮れはしない。そんな事情を一切無視して、さも自分が精巧なレンズにでもなつたつもりでアグラをかいているのが、世上の単色版式翻訳家どもである。

注 1 能書—文字を巧みに書くこと。 2 畢竟—結局のところ。

(神西清「翻訳のむずかしさ」による)

問題 11 次の文は本文の一部である。文中の(A)~(E)のうち最も適当な挿入場所を一つ選択せよ。

いずれ僕もあと三十年もしたら浴衣がけて芸談一席と洒落る気になるかも知れないが、今のところはかっぱうぎこの不細工な割烹着を脱ぐつもりはない。

- ① (A)
② (B)
③ (C)
④ (D)
⑤ (E)

問題 12 傍線部(ア)「料理人は転手古舞で、材料の吟味はもとより、ろくろく包丁も研ぐひまがない」とあるが、これは何を例えているか。最も適当なものを一つ選択せよ。

- ① 料理の基礎となる道具や材料を、ないがしろにしている状況。
- ② 翻訳すべき大量の本に追われて、一つ一つの本の翻訳が粗雑になってしまっている状況。
- ③ 文化の根づきの深い国では、翻訳文芸が繁盛しても混乱は発生しないということ。
- ④ 繁盛している料理店だからと言って、材料や道具が丁寧に扱われるとは限らないこと。
- ⑤ 物事には必ず善悪の両面があるということ。

問題 13 傍線部(イ)「翻訳という仕事がだんだん辛くなって来ている」とあるが、筆者がそのように感じる理由として最も適当なものを一つ選択せよ。

- ① 年齢を重ね、体力的な限界を感じ始めたから。
- ② 編集者と意見が対立するようになったから。
- ③ 翻訳の作業に疑問を持ち、納得できないことが増えたから。
- ④ 他の翻訳者の文章と差別化するために、凝った言い回しを考え続けているから。
- ⑤ 徹夜することが増え、体調を崩すことが多くなったから。

問題 14 空所(ウ)に当てはまる最も適当な語句を一つ選択せよ。

- ① ところが
- ② そのため
- ③ あるいは
- ④ いずれにせよ
- ⑤ いわば

問題 15 傍線部(エ)「千番に一番の兼合い」は本文中でどのような意味で用いられているか。最も適当なものを一つ選択せよ。

- ① 需要の少ない仕事
- ② 才能のある人だけが就くことのできる仕事
- ③ 失敗が許されない仕事
- ④ 非常に難易度の高い仕事
- ⑤ 単純作業を繰り返す仕事

問題 16 傍線部(オ)「翻訳という仕事があり続けるかぎり、ぜひとも背負わなければならぬ不幸な宿命」とあるが、これはどういうことか。最も適当なものを一つ選択せよ。

- ① 編集者の意見に従わなければならないこと。
- ② 外国文学の流行に影響を受けて、翻訳の需要が決定されてしまうこと。
- ③ 翻訳者には裏切り者が多いという誤った認識を人々に持たれてしまうこと。
- ④ 日常では使われない専門用語のような外国語も覚えなければならぬこと。
- ⑤ 意味を忠実に訳しつつ、原文の響きを失わないよう注意しなくてはならないこと。

問題 17 傍線部(カ)「単色版式翻訳」に対する筆者の意見として最も適当なものを一つ選択せよ。

- ① カラー・フィルムの出現によって、その地位は危うくなっている。
- ② 翻訳過程における人為的操作を防ぐことができる。
- ③ 翻訳者として大成するために不可欠である。
- ④ 原文が含んでいる言葉遊びを表現することはできない。
- ⑤ 濫訳の弊を生じさせないための、最も有効的な翻訳方法である。

問題 18

aとdのうち、本文の内容と合致するものの組み合わせとして正しいものを一つ選択せよ。

- a 筆者は、翻訳という仕事の不合理さが鼻についてやり切れないため、せめて苦心談をしてうさ晴らししようとしている。
- b 文芸作品は、人間の精神の自由な躍動を表している。
- c 翻訳の仕事の多くは、横書きの文章を縦書きに組み直すという単純作業である。
- d 翻訳文芸の繁盛を安直に喜ぶのではなく、その善悪両面を考えるべきである。

- ① aとb
- ② aとc
- ③ bとc
- ④ bとd
- ⑤ cとd

